



すぎのこつうしん

平成 27 年度 8 月号 古川東町カトリック保育園

「手を合わせて祈る心が育つ」

連日のように 30 度を超える暑さ。プールや泥んこ遊びで小さな園庭に歓声が響いています。夏の生き物も子ども達が持って来ては、友だちと一緒に食い入るように見えています。ザリガニ、カブトムシ、クワガタムシ、セミの抜け殻等々、さながら博物館のようです。

6 月・7 月の保育参観・懇談会に参加していただきありがとうございます。子育ての悩みを話したり聞いたりすることで明日からまた頑張ってみようという気持ちになっていただけたら嬉しいです。子どもを育てていく事は誰も、これでいいのかなど悩みながら行っているものです。すぐに結果が出る訳ではないのですが、子どもたちは、一人一人少しずつ信号を出しています。それに気付くことが出来るかが問題ではないでしょうか。

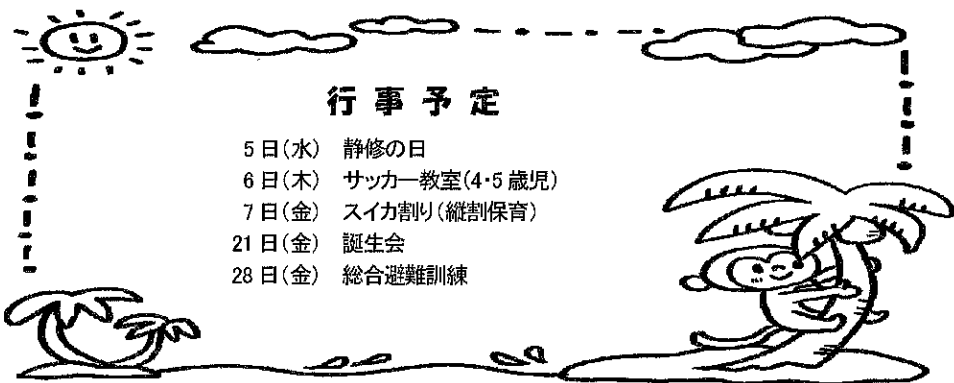
いつ気付く、どう対応するか

それにより子どもの成長も違ってくることでしょ。まずは、子どもをしっかり見守ることです。

さて、8 月の目標は「祈る心」を育むことといたしました。私たちは日々の生活の中で知らず知らずのうちに祈っていることに気付きます。「子どもが熱を出しませんように！」「早く病気が治りますように！」「早く歩けるようになりますように！」「みんな仲良く暮らせますように！」「仕事があまくいきますように！」等々。親になると子どもの事を祈る事が多いのではないのでしょうか。誰に対してという訳でもなく、つい祈ってしまう。それはきっと人の心の中に生まれながらにして祈る心が備わっているのかもしれない。

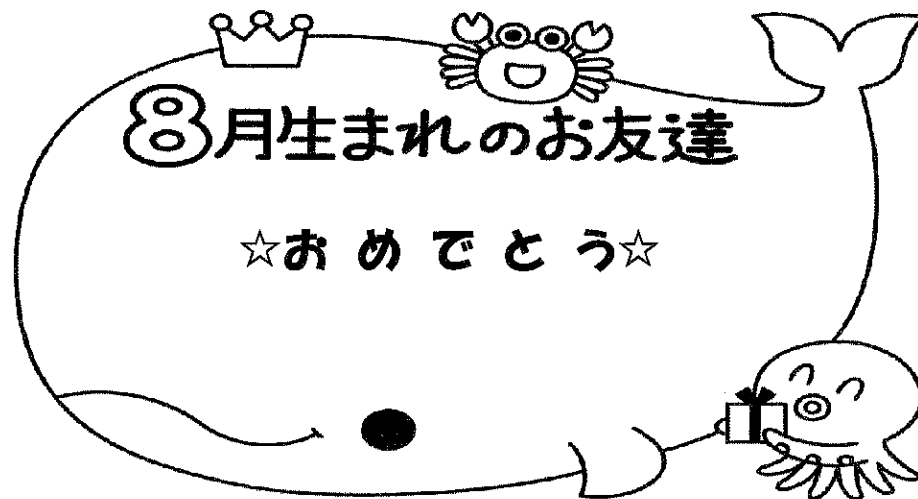
お盆には先祖に対して感謝の気持ちを手を合わせて祈ることで知らせ、「祈る心」を子ども達にも伝えてほしいと思います。

〈園長 平野 義子〉



行事予定

- 5 日(水) 静修の日
- 6 日(木) サッカー教室(4・5 歳児)
- 7 日(金) スイカ割り(縦割保育)
- 21 日(金) 誕生会
- 28 日(金) 総合避難訓練



8 月生まれのお友達

☆おめでとう☆

おとうさん、おかあさんから

カトリック保育園にお世話になり始めたのは、長女〇〇〇が0歳のとき。そしてその娘が、もうすぐ6歳の誕生日を迎えようとしています。この5年間には色々なことがありました。

初めての育児へ不安を抱える中残業が続き、娘に申し訳なくて泣いたこと。新しい園舎へのお引越し。東日本大震災の発生により帰宅できない日々や、泊まり勤務への異動。娘のアレルギー発症や2度の手術、そして長男〇〇〇の誕生。

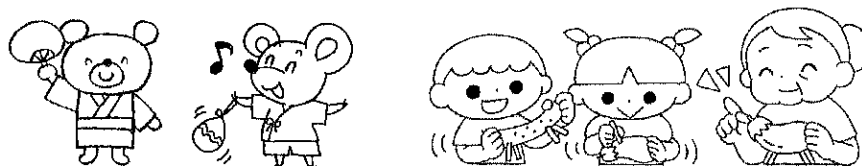
「私みたいな母親で大丈夫？」今でも不安はたくさんあります。それでも、〇〇〇は優しく、のびのびと育っています。あんなに小さかったのに、最近では〇〇〇に絵本を読んであげたり、食器を洗ってくれたり。本当に頼もしいお姉ちゃんになりました。これも、保育園の先生方とお友だちのおかげだと思っています。そして、色々な悩みや意見を話し合えるお母さんたちとの出会いも私にはとても大きな支えになっています。これまで子ども達の成長を見届け助けてくれたカトリック保育園に関わる全ての人々に感謝します。

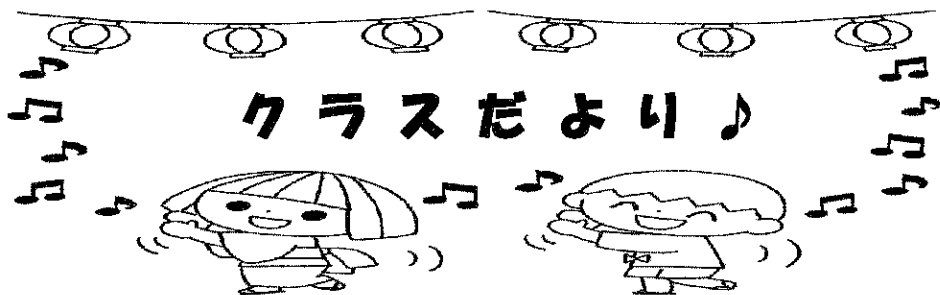
〈 ひつじ組 〇〇〇〇ちゃんのお母さん 〉

お知らせ

★お盆期間中の8月13・14・15日はお弁当になります。ご協力よろしくお願ひします。

★今月はボックスティッシュを集めます。名前を書いて持って来てください。





クラスだより

ばんび組(0歳児)

- <ねらい> ・手を合わせることを知る
 ・沐浴や水遊びを楽しむ
- <家庭連携> ・お墓参りなど一緒に行う中で、手を合わせることを少しずつ知らせていきましょう
 ・暑い日は沐浴、水遊びを行うので家庭や園での体調など様子を伝え合い夜はゆっくり休み疲れをとるようにしましょう

ひよこ組(1歳児)

- <ねらい> ・日常生活を通し手を合わせて祈ることを知る
 ・一人でズボンを履いたり、上衣を着ようとする
- <家庭連携> ・お墓参りなどを通して手を合わせて祈ることを知らせましょう
 ・汗をかくので着脱しやすい衣服を多めに用意して下さい

ことり組(2歳児)

- <ねらい> ・手を合わせ祈ることを知る
 ・やりたいことや、やってほしいことを言葉で伝えようとする
- <家庭連携> ・食事の前後の挨拶を家族で手を合わせて祈る習慣をつけたり、お盆のお墓参りの際も手を合わせられるよう働きかけていきましょう
 ・自分の言葉で伝えられた時には褒めたりその喜びに共感し、自分で相手に伝える自信をつけていきましょう

こねこ組(3歳児)

- <ねらい> ・手を合わせて祈る心を育む
 ・身の周りのことを自分でめししようとする。
- <家庭連携> ・手を合わせて祈る機会を設け、一緒に祈りましょう
 ・一人ですりをする姿を認め、“自分でできた”という達成感や自信が持てるよう見守りましょう

うさぎ組(4歳児)

- <ねらい> ・祈ることの大切さがわかり、心を込めて祈る
 ・夏の健康、安全に留意し、清潔で快適に過ごす
- <家庭連携> ・御盆を通して手を合わせて祈ることの大切さを知らせ心を込めて祈れるようにしましょう
 ・夏の疲れが出やすい時期なので、体調管理をしっかり行い、汗をかいた時は自ら着替えられるようにしていきます

ひつじ組(5歳児)

- <ねらい> ・心を込め、自ら祈る
 ・リズム運動や表現遊びを通して、身体機能を高める
- <家庭連携> ・お墓参りや仏壇に手を合わせる機会を作り、心を込めて祈るよう知らせていきましょう
 ・運動会の練習が始まる為しっかりと休息をとるようにしましょう。できるようになった動き等を聞き出し褒めてあげましょう。

給食室

- ・保育園では「いただきます」「ごちそうさま」をするとき、手を合わせ感謝の気持ちで挨拶します。毎日繰り返しておこなうことで自然と感謝する気持ちやあいさつが身につきます。ご家庭でもお父さん・お母さんが「あいさつ」の見本となっていたいだきたいと思えます。

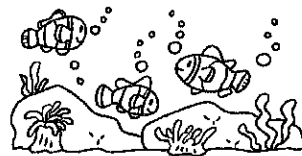
8月のうた

神さまといつもいっしょ

かみさまといつもいっしょ わたしたちみんな

1. あさがきて よがあげる たいようのプレゼント
2. ことりたち こえだから おはようのごあいさつ
3. おいしそう たべましょう おしょくじのプレゼント

ありがとう かみさま ありがとう たくさんのおめぐみを
 ありがとう かみさま ありがとう わたしたちのため



うみ

うみはひろいな おおきいな つきがのぼるし ひがしむ
 うみはおおなみ あおいなみ ゆれてどこまで つづくやら
 うみにおふねを うかばせて いってみたいな よそのくに



手を合わせて祈ること

恥かしいことに保育園で働き始めるまで、食事の前後の挨拶は手を合わせて「いただきます」「ごちそうさま」と言うだけでした。しかし、食事の挨拶は食材を汗水たらして作ってくれた人々、運んでくれた人、命を犠牲にしてくれた動物や魚、それらをさばいてくれた人、これら全てを使って栄養のバランスを考えたり、食事にしてくれた人々へ感謝の気持ちを込めて祈る事だと教えていただきました。そして、あの震災のとき水や電気・流通が止まりいかに食事を食べられることが幸せな事かという事を体験しました。

良く考えてみると、食事の挨拶に限らず手を合わせる時って感謝を伝えたりお願い事をする時なんですよ。お墓などで「いつも守ってくれてありがとう」「元気に過ごせますように」など・・・

忙しい時ほどしっかり気持ちを込めて祈ると、心がリセットされ前向きな気持ちにさせてくれるはずです。祈ることの本当の意味を子どもたちにも伝え、一緒に祈っていききたいと思えます。

<ひつじ組担任 跡部 紗希>

あなたの一分間拝借！

平成27年8月1日

人間は祈る動物であるといわれます。食べたり、飲んだり、寝たり、子育てをしたりするだけなら、他の動物と何ら変わりはありません。動物と違うところ、それは『宗教性』が与えられている点です。聖書によれば、人間は神の似姿として創られた存在であることがわかります。唯肉体だけで生きているわけではありません。肉体は土と同じ化学元素で成り立っているに過ぎず、生きていると言うことは神の息吹である靈魂がなければ、肉体的内的仕組みは働かない事に目覚めましょう。靈魂は、命の源になるもので不滅のものです。その靈性は神の「かたどり」であり、肉体と一体となり、人間と神との深いかわりを持っている力です。人は、誰でも神を知り、信じ、愛するように招かれている所以（ゆえん）がここにあるのです。イエスが『人はパンだけで生きるのではない、神のみ言葉によって生きる！』と仰せられたことは、人が心も体も聖であるように、私という存在を与えて下さった御方のみ旨（みむね）に適った人生を歩まれるようにとの心訓ではないでしょうか。それは与えられた各自の靈性を活用し、こころの奥底に眠れる宗教心を目覚めさせ、神との関わりを生活の軸にして努力するにほかなりません。

8月の目標は、『手を合わせて祈る心の育成に力を尽くしましょう！』です。

手を合わせて祈る心を大切にしよう保育したら最高の8月になります。重要な事は、手を合わせてはいけないものに神として手を合わせることをないように気をつけることです。

人間は誰でも祈る心を神から頂いております。空気を吸って生きているように神の息吹を吸って生活するところに喜びを分かち合う力が、苦しみを乗り越えるエネルギーが与えられるのです。弱者の痛みも理解できる人間に成長していくことと思います。祈りはまさに子どもや老人たちや病める方々の専売特許ではありません。祈りは、神と挨拶し、ありがとうと感謝をし、間違ったことがあればゆるしを願い、神のみ旨（みむね）に適う世界を目指して生きるように与えられた宗教心を正しく活用して、神と対話することにほかなりません。

カトリック保育園の目標『四つの心 挨拶、ありがとう、謝り合う、与え合う心』は人間同士だけで終わってはなりません。人間と命を与えて下さった御方即ち神との関わりにつながってこそ、はじめて生かされることですから中途半端にならないように生涯課題として受け止めてほしいものです。

イエスは次のように仰せられて弟子たちを諭されました。

求めなさい、そうすれば与えられる。探しなさい、そうすれば見つかる。

門をたたきなさい。そうすれば開かれる。誰でも求めるものは受け、探すものは見つけ門を叩くものにはひらかれる。（マタイ7-7）

わたしに向かって「主よ、主よ、という者が皆、天の国に入るわけではない。私の天の父の御心を行う者だけが入るのである」（マタイ7-21）

天の父なる御心に適った祈りを生きている人は、自然を破壊したり、環境汚染の行為を平気で行ったりしません。自然環境保護者でなければならぬのに山や川、海にゴミを捨てたり、町の公共物を粗末に扱ったりしません。

- ※ 祈りの心で生きる人は、家庭でも、職場でも、他者の心を傷つけるようなことはいたしません。
- ※ よく祈る人は、他人の悪口、陰口、中傷したりしません。
- ※ よく祈る人は、金銭をごまかしたり、借りたものを返さなかったりしません。
- ※ よく祈る人は、父母の正しい指示に喜んで従うものです。何よりも大切にします。
- ※ よく祈る人は、約束事を忠実に果たします。
- ※ よく祈る人は、偽証して信頼を失うようなことはいたしません。
- ※ よく祈る人は、不倫をしたり、離婚等のトラブルを起こさないものです。
- ※ よく祈る人は、弱い立場にいる人々への理解が深く、慈愛に満たされています。

※ よく祈る人は、困難を乗り越える力が与えられます。神との一致の道が開かれます。

※ よく祈る人は、罪や過失を犯した時でも、回心の心があれば、和解の恵みをお与えになります。

なお、私たちが祈る時に心掛けること、それは

- ① 愛であり、正義にまします、天地万物の創造主である神を信じること
- ② 人間は被造物であることを心で受け止め謙虚の姿勢をもってお願いすること（あなたの思し召しのままになりますようにという「へりくだりの精神」が求められていることに目覚める）
- ③ 熱心に祈ること
- ④ 忍耐を以って犠牲さえ神に捧げるといことなど等です。願いが叶った時には感謝の祈りを忘れないことですね！

神が全能でも、出来ないことがあります。それは私たちの救いは、私たち自身が神の御心に適った人間になるよう協力しなければ、祈りの効果はあり得ないということです。

幼児のような純粋な心で感謝と賛美を捧げる時、恵みで満たされる！

カトリック古川教会
司祭 川井 啓

